

わたしは、にんげんのくにからきたものだけれども、かえりみちがわからなくて、こまっているのよ。だれかしっているなら、おしえてちょうだいな」すると、そのなかの、いちばんとしよりらしいひばりが、こういいました。「りいちょ、りちょ」「まあ、それは、なんという、いみなの」「ちょんぐりい、ちょんぐりい」「ちっともわからないわ」「ちりる、ちる」「つまらないわねえ。そんなことばじゃ、ぜんぜんおはなしにならないわ」と、おしゃべりひめが、いいますと、こんどは、あつまっていたひばりが、みんな、いっせいに、しゃべりだしました。「ぴ

ーくい、ぴーくい」おしゃべりひめは、あんまりやかましいので、びっくりして、「まあ。なんてやかましいんでしょう。そんなにしゃべっちゃ、わたしのみみが、つぶれてしまうよ。やめてちょうだい、やめてちょうだい」と、いいましたが、ひばりたちは、なかなかやめません。なおも、よってたかって、しゃべりつづけます。おしゃべりひめは、あんまりひばりたちにしゃべりつづけられて、これはたまらぬと、りょうでみみをおさえて、にげだすと、ひばりたちは、なおもしゃべりつづけながら、おっかけてきます。そのうえ、いつ